

伝統技術を継承し、100年後の人類まで届くモノづくり (同)ELEMUS (岡崎市)

事業者概要

- 所在地：岡崎市明大寺町耳取 102
- 代表社員：ダントーホールディングス(株)／職執者小原淳
- 設立年：令和元年6月
- 雇用者数：常時雇用者数3名



サスティーモ®

取組概要

- 【生産（1次）】漆の木の育種及び栽培。日本で唯一、漆の発芽栽培技術を持つ。
 - 【加工（2次）】木粉と漆の樹液を混ぜたものを原料とした新素材サスティーモ®の製造。木粉の材料は、地域の森林組合が加工した杉・檜などのチップを活用。
 - 【販売（3次）】サスティーモ®を原料とする商品の製造事業者への販売。
- サスティーモ®：(地独) 東京都立産業技術研究センターと共同開発した、素材と成形に関する特許技術。杉や檜を微粉砕した木粉と漆の樹液を原材料とする、石油を一切使用しない天然原料。プラスチックと同程度の強度を持ち、抗菌性・抗ウイルス性を持つ新素材。プラスチックの代替素材として今後展開。

取組までの経緯

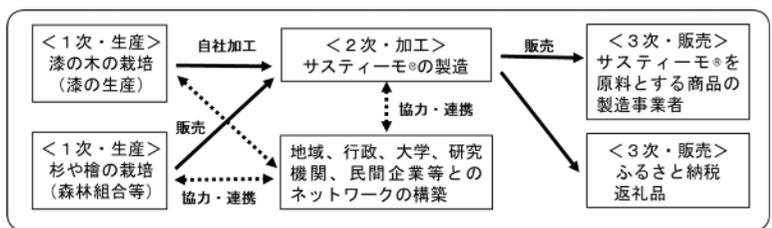
東京都立産業技術研究センターと約20年をかけて共同研究したサスティーモ®の特許技術を継承し、独自の製造・加工方法の特許を取得した。岡崎市は総面積の6割が森林を占めること、また、かつては日本三大漆産地であったことから、この地域で漆の木の育種及び栽培に取り組み、漆の樹液と未利用資源である木材を原料とするサスティーモ®の製造を始めた。

取組の特徴、強み

伝統的な技術や天然素材の知識を継承しながら、地球に優しく人類が快適に暮らすための新しいモノづくりに取り組んでいる。漆を植える→育てる→加工する→使うという循環型素材技術を持つ。

令和3年度に「岡崎漆プロジェクト」を始動し、地域や行政、大学や研究機関、民間企業やNPO等とネットワークを構築した取り組みとなっている。

ビジネスモデル・連携図



取組の課題

- サスティーモ®の物性、抗菌性、抗ウイルス性を活用した商品開発（眼鏡フレーム、自動車の内装パネル、コンパクトケース、電車などのつり革リング等）
- 商談会等の出展による販路開拓（BtoB）。岡崎市のふるさと納税返礼品となること。
- サスティーモ®のブランド化及び漆の木が吸収した二酸化炭素を使った新しい脱炭素ビジネスの構築。

課題解決の方法

- 展示会等への出展により、新規顧客及び新規サプライヤーを獲得する。
- サスティーモ®に興味を持つメーカーと新商品の共同開発を行う。
- サスティーモ®の成型機製造を軌道に乗せる。
- 自分と周りの人が思っている課題は違う。コミュニケーションを取り、課題を解決していく。

取組の効果

これまで廃棄されていた未利用資源の木材を活用することで、木材の付加価値向上を図り、林業の活性化に寄与する。サスティーモ®の生産体制を構築することで、地域の雇用創出、所得向上、地域経済の活性化につなげる。伐採後は漆を植林することでCO2を吸収し環境対策に寄与する。

活用した支援策

- 農山漁村振興交付金（R4）
- 農山漁村発イノベーションサポート事業（R4）



今後の展望

- 【短期】サスティーモ®及びサスティーモ®を活用した商品を広く知っていただくこと。売上を伸ばすこと。
- 【長期】「伝統技術を継承し、100年後の人類まで届くモノづくり」を理念とし、サスティーモ®を通じて100年後の世代が安全・安心に生活できるよう地球環境に貢献したい。岡崎市発の漆栽培を県域に広め、県内で漆をブランド化し、石油依存型モノづくりからの脱却を図りたい。

取組者のコメント

サスティーモ®を通して、SDGsや海洋汚染について考える機会としてほしい。モノづくりの根本を見直す時期だと思う。次世代に責任を押しつけず、今の世代ができることに向き合い、行動していく。



サスティーモ®を原料とする商品